

質問 No.4

「進路先が確保できるか不安です。飽和状態になりませんか？」(だいじょうぶさんから)



ミズタ先生～！ちょっと悩んでいるピー。



やあ、ときぴー。不安な顔をして、どうしたの？



高等部を卒業したあとして、  
みんな必ずどこかの「進路先」に行くことができるピーか？



そうだよね。心配になるよね。時和特別支援学校と長崎県の知的障害の特別支援学校全体で考えて答えさせてもらうね。



じゃあ、長崎県の知的障害の特別支援学校の場合から教えてピー。



過去3年間（令和4年度～6年度）で長崎県の知的障害の特別支援学校を卒業した方は571名でした。



毎年、平均したら190名くらいの方が卒業していらっしゃるピーね。



進学	就職	福祉サービス利用	家庭	計
3	249	306	13	571
0.5%	43.6%	53.6%	2.3%	100%

表にすると、このような数字になるよ。「家庭」が、いわゆる「未定」という意味合いも含まれる部分になるね。



3年間で13名の方が長崎県で「家にいる」という選択をしているということかピー……。



そうだね。ただ、「家にいる」という13名の中には「行く施設がどこにもなかった」という理由の方はいらっしゃらないだよ。

理由はいくつかあるんだけど、自分の意思などで「家庭での生活」をしていらっしゃるんだよ。



じゃあ、この3年間では「行く施設がない」、飽和状態になった、ということはないんだピー。



その通り。ただ、未来のことは誰にも分からないから、簡単に「ゼッタイに大丈夫です」とは言えないよね。



進路指導部からのお願いとしては、進路希望は第一希望だけでなく、第二希望、第三希望と考えておいていただきたいんだ。



そうだピー。



確かに、他の高校生たちも進学や就職を考えるときは「ゼッタイここのしか嫌！」という人は少ないピー。

そうだよね。第一希望のみ！というのも気持ちは分かるんだ。でも、第二、第三希望とあることで、進路に関する視野や視座が広がり、その考えで進んだからこそ、いろいろな人たちに出会い、より良い社会生活が送っている、という卒業生もたくさんいらっしゃるんだよ。



なるほどだピー。

時和特別支援学校の令和4年度～令和6年度の卒業生に関しては、全ての卒業生が卒業段階で就職または福祉サービスを利用したんだよ。



つまり「家庭での生活」を選んだ人は「0」ということピーね。

そのとおり。当然、卒業生は毎年増えて行く。それと同じように、長崎県内の「福祉施設」は年々増えているんだ。  
だから、一つの福祉施設だけを見つめるのではなく、幅広く見て行くのが大切だと思うな。



なるほどだピー！僕もいろいろな福祉施設を見たいピー！

未来のことは誰にも分からないけれど、過去に学べば、「大丈夫」だったということも分かるので、一つの事実として知っておいてください。



ミズタ先生、ありがとう！また教えてピー！